

あけましておめでとうございます。今年も昨年同様
よろしく願いいたします。

昨年 ISO9001 と 14001 の大改正がなされました。
国際規格は時代の変化に対応して定期的に改正され
る決まりですが（原則は5年）、今回の改正内容は、
世界的にきわめて評価が高いといわれています。
ひとつは世界的に複数の規格をひとつのシステムと
して構築・運用する組織が増えたことへの対応と、
もうひとつは実際的に役立つシステムへの大幅な
見直しがなされた点だと思います。前者では、



ISO 講演（2015年12月）

マネジメントシステムとは、「品質」「環境」「情報セキュリティ」「労働安全衛生」など各々
の規格の目的は違えども、仕組みの構築はほぼ同一だという考え方から来たものであり、
後者は、ISO を導入してもあまり自組織に役立たないという世界からの不満に応えるとい
う意味があるようです。

●自然体の仕組みの構築

今回の改正の大きな目玉として「事業活動と規格の一体化」が謳われています。この意味
は、ISO を意識することなく、日常の事業活動を行えば自然と ISO の要求事項をクリアし
ていることをいいます。登録組織の皆様。ISO の要求事項をあらためてチェックしてみ
てください。何か日常とかけ離れた特別のことが要求されていますか？

見方を変えることにより、ほとんどの ISO 要求事項が日常の事業活動のどこかに相当する
ことに気がつくはずですが、一部要求事項に足りない箇所も出てくるかも知れませんが、そ
れはそれでその部分だけ追加したらよいだけのことです。このような仕組みであれば、社
員の ISO 離れが起こるはずはありません。日常の事業活動そのものが ISO をクリアしてい
ることになりますから。

●客観的な証拠

ISO の認証を維持するためには、定期的に第三者の審査機関から審査を受けなければなり
ません。審査は客観的な証拠の収集・確認によって進められて行きますが、「記録」という
客観的な証拠にこだわりすぎる審査が後を絶ちません。もし記録だけで審査が済ませられ
るのであれば、わざわざ審査先まで出向く必要はなくなってしまいます。

DAS ジャパンは、記録に頼る審査は行っておりません。現場でシステムの徹底や運用状況
をこの目で確認することをすべての審査員に徹底しています。本件はまた、英国 DAS 本部
からの指示事項でもあります。記録は後から偽造できますが、現場の実態は急にはごまか
すことは不可能だからです。また現場審査は、当該組織の経営状況も把握できます。

「社員が生き生き働いているか」「設備の稼働状況はどうか」「不要なエネルギーを使っ
ていないか」「重要な情報が放置されていないか」「社員の労働安全はどのように確保されて

いるか」「整理整頓は行き届いているか」など、現場にこそ確認すべ客観的な証拠が山ほどあるのです。

●ISOを大いに活用しよう！

毎回の審査のたびに「審査の準備」をするのはもうやめにしませんか？

前述の自然体でシステムを構築しそれを運用しているなら、自然とISOはクリアしているはずですから、いつでも審査は可能なはず。もともとこのシステムは顧客や自組織のためにあるはずですから、審査機関を意識するよりも、顧客や自組織のためのシステムになっているかに重点をおくべきものです。審査でもしそれにブレーキを与えるような指摘やアドバイスであれば、ご遠慮なく堂々と反論してください。

「営業活動の一環としてISOのお墨付きを維持する」時代はもう終わりました。今回の大改正で、今後はISOをいかに経営のツールとして生かしているかが問われることになったのです。

DAS ジャパン から

■弊社代表が現代執筆者大辞典に掲載される！



- 1) 雑誌の文献情報 470 万件をもとに、現代を代表する作家・評論家・研究者・ジャーナリストなど 5,000 名を収録。
- 2) 現存者を収録する唯一の大規模な人名事典
- 3) 12年間の文献データに基づく21世紀を代表する人物選定

2003年の第4期に続き、12年ぶりの本年7月発行の第5期にも弊機関代表の萩原が掲載されました。本事典はおおむね10年単位で発行されていて、現在わが国で最も活躍している作家、評論家、研究者、ジャーナリストなどの実績をまとめたもので、今回が5期ということから、もう40年近くの歴史があります。

(編集責任者 萩原由利)



英国系 ISO 認証機関 DAS ジャパン(株)

代表取締役 萩原睦幸

東京都豊島区東池袋 3-20-16-503

info@das-japan.jp

<http://www.das-japan.jp>